

平成20年度学校評価表

学校番号 75

最終評価

長野県梓川高等学校

評点 5: 十分 4: ほぼ十分 3: どちらともいえない
2: やや不十分 1: 不十分

* 「評価項目」の数字は、重点目標の項目番号。

領域	対象	評価項目	評価の観点	最終評価(成果と課題)	評点	具体的な改善策・向上策
	教育課程	(1) 教育課程研究とコース制の充実	生徒の要望に応えた、カリキュラムの研究・検討を行い、コース制の改善を図っているか。	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の改善のため、教育課程委員会で本年度3学年生徒の実施状況と課題を検討し、自由選択群の科目設定に改訂を加えた。 コースアンケート実施結果: 満足 3年62%、2年52%、不満足 3年6%、2年14% 	4	<ul style="list-style-type: none"> 3年次の選択科目群の組み合わせについては、引き続き研究検討が必要である。 生徒の進路希望を踏まえつつ、今後の教育課程の研究、コース制の改善検討に努める。
			地域の特色を生かした講座を工夫しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 福祉コミュニケーションコースにおいて、社会人講師の活用を図り生徒の興味関心の喚起に努めた。 昨年に引き続き、総合的学習の時間には多様な社会人講師の活用を努めた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 福祉コミュニケーションコースでは訪問介護員2級の修得の過程はいったん休止することとしたが、これに代わるコースの魅力づくりが求められている。 引き続き、魅力ある講座の展開のため工夫を凝らし、多彩な講師陣による講義を提供できるよう検討を進めたい。
教育活動	学習指導	(2) 基礎基本の定着と個の興味関心に応じた指導	授業担当者は、基礎・基本の定着に向けた授業改善に取り組んでいるか。	<ul style="list-style-type: none"> 学習環境の整備に努めたが、全職員の一一致力が得られている状況ではない。 個別指導では効果があるが、集団の授業の中で自分のやるべきことがわからない生徒の指導に手を尽くしたい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習環境を整えることとして、机上へ飲食物、ケイタイ等を置かせない指導を全校で取り組みたい。 授業方法の改善、内容の系統化にさらに努めたい。教材研究を深め、輝く授業の展開が肝心である。
		習熟度別授業と個別指導の充実	授業担当者は、生徒の要望等を把握し、習熟度別授業、個別指導の充実を図っているか。	<ul style="list-style-type: none"> 全体一斉授業での指導で不十分な部分を、個別指導で課題を示しながら補充している。 個々の生徒とのコミュニケーションを重視した指導に努めた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 一斉授業での講義内容の理解のために、一部集中力に欠ける生徒の姿勢を指導していく必要がある。 一層の個別指導の充実が必要である。
		学習目標の明確化	明確な学習目標を設定し、年間を見通した計画の中で、1時間ごとの授業への取り組みを指導しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にとってわかりやすいシラバスの作成に努めた。 各学年内での教科間の指導の連携、指導法にかかわる研修を深めていきたい。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲の乏しい生徒の意識改革に努める一方で、学習意欲の高い生徒の要望に沿った授業展開を工夫していきたい。 授業のチャイムスタートなどの取り組みを年度当初から一貫して全校で行いたい。
		授業評価による授業改善	授業アンケート、定期考査等を通じ、生徒の理解、関心の度合いを図りながら授業改善に努めているか。	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート実施状況 1学年: 約90%の科目で実施 2学年: 約90%の科目で実施 3学年: 約80%の科目で実施 国英で進路に対応した授業内容が評価された 	4	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの効果的実施のため、学習係を中心として全校で取り組みたい。 ある程度の比率の生徒が「自分なりに、しっかり取り組んでいる」という意識を持っているようだ。その意識を大切にしながら、よりレベルの高い学習内容に高める努力を続けたい。
	進路指導	(3) 3年間を見通した計画的な進路指導	学年ごとの具体的な指導目標の設定と、生徒一人一人の進路相談の充実を図っているか。	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとにそれぞれの課題を踏まえて、進路別ガイダンスの実施をした。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 今年度初めて業者を介して進路説明会(進学)を行った。各学年で検証しながら進める必要がある。
		多様な進路希望の実現と職業理解の促進	キャリアガイダンスや職場体験をととしての職業理解の促進を図っているか。	<ul style="list-style-type: none"> 2学年対象の企業見学、相談会の充実を図り、生徒に対する早期の動機付けに役立てることができた。 センター試験受験者が増えるとともに、高い目標に向けて努力する生徒の指導に成果が上がった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 来年度さらに深刻化が心配される景気の低迷を見据えて、早い時期からの生徒の進路対策や動機付けに努めたい。

生徒指導	(4)	基本的な生活習慣の確立	全職員が一致して生徒の指導に当たり、集団生活のマナーやルールの理解を指導しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 登校時の声がけや、昼の立ち番等で、多くの職員の協力の下成果を挙げている。自転車点検、頭髪指導についても学年・係の連携を図っている。 問題行動の指導件数はほぼ昨年並みの数で、一昨年度以前と比べると低く抑えることができています。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 本校でもネットに絡んだ問題が見られるようになり、未然防止の対策が必要となっている。 引き続き喫煙等防止のための放課後巡視も行いたい。 遅刻、頭髪、授業中携帯使用の指導について、職員チームとしての粘り強い取り組みが必要である。
		多様な悩みを持った生徒の支援の充実	生徒相談の体制を充実し、多様な悩みを持つ生徒の支援を図っているか。	<ul style="list-style-type: none"> 日常の相談活動の他に、カウンセラーとの面談の設定・調整など、生徒の求めに応じて対応している。 	4	生徒が相談しやすい場所であれば、それほど先生のところでもよい。相談室、保健室、各職員との情報交換を密にしていきたい。
クラブ会	(5)	自主的、主体的に行動する生徒の育成	生徒の自主活動に適切な助言と指導を行い、責任感・自治能力を育てているか。	<ul style="list-style-type: none"> 卒水祭が無事終了した。「意見箱」を設置して全校の意見を聞くこととした。生徒が主体的に活動できる生徒会の育成に一層努めたい。 	3	日常の生徒会活動や委員会活動に関わっていく時間を増やし、活動に対して適切な指導・助言が行える体制を確立したい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	最終評価（成果と課題）	評点	具体的な改善策・向上策
学校運営	組織運営	(1) 学校評価活動の充実	学校評価活動を通して、教育活動の向上及び教育課程の改善を図っているか。	<ul style="list-style-type: none"> 各行事ごとの反省を充実させ、次年度への今後の課題を明確にするよう努めてきた。 本年度は学校評価の仕方について、従来の方法に改善を加え、評価活動が有効に機能するよう努めた。 教育課程改善に向けて、教育課程委員会で3学年の実施状況と課題を検討し、自由選択群の科目設定に改訂を加えた。 	4	教育懇談会、学校評議員連絡会、および学校評議員個別聴取等により、広く意見聴取を行い、学校評価活動の充実を期したい。
		(1) 情報提供	HP等を通じ、本校の教育活動に関する情報や資料の公開・提供をしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ホームページによる、迅速でわかりやすい情報提供に努めた。 	4	今後ともHP等を通じわかりやすい情報発信を続けるとともに、紙面での広報や地域への情報提供に努めたい。
	地域連携	(1) 意見聴取と反映	地域の声を聴取し、教育活動に反映しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 本年度も地域モニターを委嘱した。10月開催の教育懇談会において、意見聴取や、学校関係者評価を実施し、教育活動に反映することができた。 	4	11月開催の教育懇談会、12月実施の学校評議員個別意見聴取等を活用して本年度の自己評価中間評価に関して、学校関係者からの評価をいただいた。次年度の改善に活かしたい。
		(1) 教育力の活用	地域の教育力の活用を推進し、生徒の学習意欲を引き出しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 波田町平和祈念式典に参加、生徒作品の展示等で好評を博した(8月)。 また、本年度波田町で開催された全県の男女共同参画フォーラムでは本校職員、生徒有志による寸劇発表等が好評であった(9月)。 	4	波田町教育委員会、中央公民館等と連携しながら、さらに地域とのつながりを深める活動を伸ばしていきたい。
	校内研修	(2) 授業・学習指導法の改善	授業・学習指導法の改善を図るための、充実した研修会及び公開授業・研究授業等が実施されたか。	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業実施状況 6月授業公開週間実施 11月第2回授業公開実施 11月長野県学校体育研究会研究授業(塩筑大会) 	4	<ul style="list-style-type: none"> 教科担当者同士が教科の壁を越えて、気軽に授業を公開し、授業改善に結びつけることができるよう、一層の取り組みが必要である。また、年2回設定してある授業公開週間、授業公開日のあり方についても検討していきたい。 教科指導研究のための研究授業の充実は引き続き進めるべき課題であり職員の意識改革が必要である。
		(1) 生徒理解	多様化する生徒の悩みに対応できる生活指導・相談体制を確立するための研修となったか。	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害と特別支援教育についての研修会を実施した。(9月)今後とも生徒理解を深めるために、扱うテーマを広げながら研修の回数を重ねる必要がある。 	4	可能な限り職員研修の機会を増やし、具体的事例に沿った内容の研修を行っていききたい。
	施設設備	(1) 学習環境の整備	生徒が生き生きと活動できる学習環境の整備に努めているか。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者、職員および同窓会役員が一緒に参加して、「学習環境整美化作業」が本年も8月に実施された。校舎内の塗装、校地内の除草、剪定作業、コート整備等に、昨年を上回る総計135名が参加した。 	5	生活指導、清掃美化、生徒会委員会等の各係が連携し、校地内外の美化活動を地道に継続させていきたい。